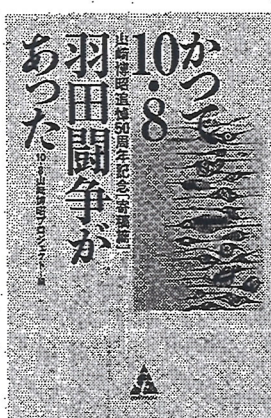


本棚

山崎博昭追悼五〇周年記念誌「かつて10・8羽田闘争があった」(寄稿編)が、一九六〇年代後半から七〇年代にかけて、ベトナム戦争反対をたたかった世代のとりくみとしてこのたび出版された。



合同フォレスト発行
B6判・620ページ
3900円+税

このたびの記念誌(寄稿編)には、多感な文学・哲学青年であった山崎博昭の日記や書簡とともに、友人・知人をはじめ青年期に二〇・八はもとより、ベトナム反戦運動にかかわった一氏が、当時の体験を証言し、その後の人生を回顧する文章を寄せている。執筆経験者、大学教授、弁護士、さらには作家・詩人・歌人・写真家など著名な文化人、哲学者・宗教

の「斗士」と対比させて一人の有為な若者が死んだ。吉田屋ならぬ羽田の橋で、若者は正義を信じて死んだ」と、澄み切った感情を露出させてうたった(「疲れた君は休みなさい」)。

山崎博昭の死は、その後のベトナム戦争に反対する青年学生運動を全国的に発展させる契機となった。

山口県の詩人・磯永秀雄は、(主人公の青い眼の色を見て)何でもくわえこむチンとシェパードの雑種」と為政者を痛罵し、学生たちを暴徒呼ばわりする「諸言論の腰抜け批評家」や「エセ革命

山崎博昭の死から50年

ベトナム反戦運動の歴史伝える

五〇年前の一九六七年一〇月八日、佐藤栄作首相の南ベトナム訪問に反対する学生と警察機動隊が空港近くの羽田弁天橋で衝突したさい、京都大学一年生であった山崎博昭君が死したという事件が発生した。六〇年安保闘争における東大生・権美智子に次いで、戦争権美智子に次いで、戦争反対のたたかいに身を投じた一八歳の若い命が奪われたことは、当時社会的に大きな衝撃を与えた。

山口県の詩人・磯永秀雄は、(主人公の青い眼の色を見て)何でもくわえこむチンとシェパードの雑種」と為政者を痛罵し、学生たちを暴徒呼ばわりする「諸言論の腰抜け批評家」や「エセ革命

山崎博昭の死は、その後のベトナム戦争に反対する青年学生運動を全国的に発展させる契機となった。

山口県の詩人・磯永秀雄は、(主人公の青い眼の色を見て)何でもくわえこむチンとシェパードの雑種」と為政者を痛罵し、学生たちを暴徒呼ばわりする「諸言論の腰抜け批評家」や「エセ革命

10・8山崎博昭プロジェクト 編

かつて10・8羽田闘争があった

話し合い、五〇周年の記念事業として追悼記念碑の建立と記念誌の刊行にとりくんできた。

プロジェクトの発起人としては、山本義隆(科学史家・元東大共同議長、大手前高校同窓生)、佐々木幹郎(詩人、大手前高校同期生)、三田誠広(作家、大手前高校同期生)、上野千鶴子(社会学者、京都大学同期生)らが名を連ね、山崎博昭の同世代を中心に、各界六〇〇人を超える人々が賛同人に加わっている。

を、逆にならべ、対抗する大きな弱さを示す。初めに公にした文章もある。

なかには、運動からの離脱への負い目や挫折から、現実の政治的な活動に懐疑的なものもある。

だが概して、今日の対米従属下の戦争の危機とこの間の安保法制反対の運動の高まりを反映して、今こそアメリカのベトナム戦争に加担した佐藤政府や財界の策動に反対し、ベトナム人民との連帯を求めて、純真な正義心で立ち上がった青年学生たちのたかがあったことを、後世に伝え残す意義を強調するものとなる。

そこは流れているのは、その後の新左翼運動が戦術面のエスカレートや党派間の内ゲバなどによって、国民的な支持を失い孤立し瓦解したことをもつて、当時の広範な若者の大義に生きる情熱と行動を肯定してはならないという思いである。同時に当時の反戦運動が、第二次世界大戦で筆舌に尽くしがたい苦難を強いられ経験に学び、その戦争反対の願いを代表してたかう方向

を、逆にならべ、対抗する大きな弱さを示す。初めに公にした文章もある。

なかには、運動からの離脱への負い目や挫折から、現実の政治的な活動に懐疑的なものもある。

だが概して、今日の対米従属下の戦争の危機とこの間の安保法制反対の運動の高まりを反映して、今こそアメリカのベトナム戦争に加担した佐藤政府や財界の策動に反対し、ベトナム人民との連帯を求めて、純真な正義心で立ち上がった青年学生たちのたかがあったことを、後世に伝え残す意義を強調するものとなる。

そこは流れているのは、その後の新左翼運動が戦術面のエスカレートや党派間の内ゲバなどによって、国民的な支持を失い孤立し瓦解したことをもつて、当時の広範な若者の大義に生きる情熱と行動を肯定してはならないという思いである。同時に当時の反戦運動が、第二次世界大戦で筆舌に尽くしがたい苦難を強いられ経験に学び、その戦争反対の願いを代表してたかう方向

を、逆にならべ、対抗する大きな弱さを示す。初めに公にした文章もある。

なかには、運動からの離脱への負い目や挫折から、現実の政治的な活動に懐疑的なものもある。

だが概して、今日の対米従属下の戦争の危機とこの間の安保法制反対の運動の高まりを反映して、今こそアメリカのベトナム戦争に加担した佐藤政府や財界の策動に反対し、ベトナム人民との連帯を求めて、純真な正義心で立ち上がった青年学生たちのたかがあったことを、後世に伝え残す意義を強調するものとなる。

此間森野

長周新聞社

下関市田中町10番2号
電話 083(222)9377(代表)
FAX 083(222)9399
メールアドレス
info@chosyu-journal.jp
振込口座 01540-0-11658
週3日刊 月々1500円
1部120円 郵送料1ヶ月530円

支店
東京 東京都千代田区千代田26
電話 03(5561)3040
FAX 03(5561)3040
名古屋 名古屋市中区栄2-94-12
電話 052(414)1250
FAX 052(414)1250
岡山 岡山市東区大塚95
電話 076(434)6887
福岡 福岡市東区新田320-16
電話 086(425)5927
沖縄 沖縄県浦添市仲間1-2-8-102
電話 098(878)1805
山口 山口県平井町377-2-203
電話 083(925)0771
FAX 083(922)6604